

※発表順

## 一般の部



### 「木の国」から生まれた環境価値の販売

－ 田脇翔太(たわき しょうた)  
松村愛生(まつむら あおい) －

和歌山県は「木の国」とも呼ばれ、面積の76%を森林が占めています。和歌山県では古くから林業が盛んでしたが、近年では木材価格の長期低迷により森林経営の負担が増大しています。

一方、企業では、政府のグリーン成長戦略の発表を機に、CO2 排出削減への関心が高まっています。自社だけでなく、取引先にも CO2 の排出削減を求める動きが加速している状況です。排出削減が難しい企業は、他社から環境価値を購入して、排出削減にあてることも認められています。

そこで、本事業では和歌山県の森林が CO2 を吸収することによって生まれる環境価値の販売を行います。県内の森林所有者や林業経営体から委託を受け、県内外の企業に対して環境価値を販売することで、林業の収益性改善と企業の脱炭素化に貢献します。

---

### 『翔べ!輝け!君と未来!』

観光地白浜から“社会福祉×アート作品”を世界へ発信!

－ 谷 正義(たに まさよし) －



提供したい就労継続支援B型事業モデル

1. 株式会社竹千代が行っている事業との連携事業

- ①(株)竹千代の竹商品(竹あかり)を、障がいのある方の仕事(収入源)とする
- ②(株)竹千代が自治体等から委託を受けた事業に関わる仕事をする(イベント等の竹あかり)
- ③障がいのある方の豊かな想像力を活かし、オリジナル竹製品を製造販売する
- ④竹あかりを周辺市町村に広げる活動を行い、積極的に障がいのある方が地域活動へ参画する

今後も増えつつある障がいのある方の活動場所、居場所、目標の持てる場所、自信を付けられる場所。そのような場所を、居場所を、働く場所の提供を目指します。株式会社竹千代の新たな障害福祉サービス事業として、就労継続支援B型事業所キミト★ミライを西牟婁郡白浜町に2022年4月1日に新規開設予定。

---

ICT・アシスティブテクノロジーを用いた高齢者、障害のある方・お子さんへの生活充実サポート

－ 株式会社アシテック・オコ

小林 大作(こばやし だいさく) －



テクノロジーの発展は、高齢者、障害のある方・お子さんの生活を豊かにする可能性を秘めています。上記の方が自分にぴったりなテクノロジーと出会うには、支援してくれる人とモノに出会う必要があります。特にモノは、色々な服を試着して自分に合う服を見つけるのと同じように、テクノロジーもまた数々の選択肢を実際に試すことで、自分だけのモノを見つけることができる機会が大切です。しかしながら、そうした機会を持つことは困難な現状があります。本事業は、テクノロジーを活用するための情報・体験・適合支援等を専門的に提供することで、“その人がその人らしく”、“子どもが子どもらしく”、やりたい活動をサポートします。さらに、それらの方が活躍できる地域づくりにまで発展させていきたいと考えています。

熊野の里山・色川で、五感で楽しむ食体験を！  
作り手と食べ手をつなぐ体験レストラン「Aima」

－ 原 久美子(はら くみこ) －



村人の半数以上が移住者で構成される、和歌山県那智勝浦町にある色川村。少し車を走らせれば、野菜や果物を育てる農家さん、養鶏農家さん、猟師さんなどさまざまな「作り手（生産者さん）」が暮らしていて、この土地の豊かな自然の恵みをいただくことができます。

「食べ手」となる参加者の方にはその近隣の生産者さんを訪問し、収穫体験や精肉体験を通じて「食」の背景を知った上で食事を楽しんでいただきます。

週末限定の体験レストラン「Aima」は2022年春にオープン予定です。

「洋服みたいに着られる着物 -NOI-」

－ 入口 真友梨(いりぐち まゆり) －



着物という伝統文化を守るため、裾野を広げる新たな発想を！

バブル崩壊後、その市場規模を最盛期から8割落とした呉服業界。

着物離れの要因は「高価で」「着付けが難しく」「着ていく場所がない」

「お手入れが大変」ということ。それらの要因を覆し、洋服のように気軽に楽に、纏える衣を開発しました。

それというのも「和歌山メリヤス」との掛け合わせです。

伸縮性に富み、軽く、柔らかな素材である和歌山メリヤスとの掛け合わせで、全く新しい衣が誕生しました。

一番の願いは、私がいなくなった未来も、「着物」という文化が日本で生き続けることです。

## 学生の部



### すべてを有効的に使える地球にやさしい植物育成型消しゴム "開花宣言"

— 新宮高等学校 小阪輝大(こさか きだい)  
尾子良太(おじ りょうた) —

今回私たちは環境問題の1つである「地球温暖化」にフォーカスを当ててこの商品を考えました。この「開花宣言」は私たちが小さな頃からずっと使っている消しゴムに『今までにない要素』を加えました。これをきっかけに子どもたちに植物を育てる楽しさや難しさを体験してもらい、その輪が広がっていけば地球温暖化が改善する1つの手段になると思います。

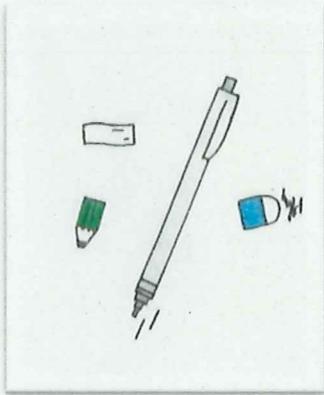
私たちやこの先の未来の子供達のためになると願い、この商品を考えました。

---

### 今まで気に留められていなかったものをもう一度資源として 利用する

～使い終わった文房具の活用法～

— 和歌山県立橋本高等学校  
三島 優依(みしま ゆい)  
西川 千菜摘(にしかわ ちなつ) —



シャープペンシルの芯の残りや、消しゴムを使用したときの消しくず、使い終わった付箋など、私たち学生が身近に使っているものの中にも、捨てるのはもったいないと思うものがあります。それらに目をつけ、学校から回収して加工することで、再利用できるようにし、SDGsに貢献していきたいと考えています。その中で、今回はシャープペンシルの芯の残りと鉛筆の残りに着目し、芯の炭素からダイヤモンドを生成しようと考えました。

---

### 1日カメラ女子、カメラ男子になろう！

— 神戸大学 吉野 実(よしの みのる) —



おうちで簡単！と宣伝文句のついた筋トレグッズや街で見かけたおしゃれな服に対して「欲しいけどすぐ飽きちゃいそうだな」と思ったことはありませんか？

面白いもの、楽しいことに溢れた現代において、数万円で買ったものでもすぐ飽きてしまうのはよくあることです。そこで「飽きてしまいそうで気軽に手は出せないけど、一眼レフカメラで綺麗な写真を撮ってみたい」という現代人の欲望を叶える新しいカメラレンタル事業を考えました。

